

J-クレジット制度
排出削減プロジェクト・
森林管理プロジェクト
検証報告書

プロジェクトの名称：

第一化成工業における A 重油ボイラーから
都市ガスボイラーへの更新プロジェクト

検証機関名	株式会社トーマツ審査評価機構
-------	----------------

発行日 2016 年 12 月 22 日

1 検証機関の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたモニタリング報告書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

機関名称	株式会社トーマツ審査評価機構
プロジェクトに関係する者との利害抵触	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
判断の根拠	株式会社トーマツ審査評価機構（以下「当社」という。）は、当社の検証マニュアル・規程に則り、利害抵触可能性の分析を行った。その結果、本プロジェクトに係る審査チームの責任者、リーダー、メンバー、レビュアーについて、プロジェクト関係者に関する一定以上の金融資産の保有、取締役／役員等の兼務、近親者（経営陣）及び当会社との経済取引、親密なビジネス関係、GHGに係るコンサルティングサービスの提供は近年無い。

2 プロジェクト実施者の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト代表実施者 ※プログラム型プロジェクトの場合、「プログラム型運営・管理者」を記載すること。	第一化成工業株式会社
プロジェクト実施者（代表者以外） ※プログラム型プロジェクトの場合、「削減活動の実施者」を記載すること。	—
類似制度における認証の有無 ※今回認証を申請する期間と同一の期間において、同一のプロジェクトに基づく認証を他の類似制度によって受けているか	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

3 検証結果（総括）

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト名、登録番号		第一化成工業における A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクト
適用方法論	方法論番号	EN-S-001 Ver. 1.1
	方法論名称	ボイラーの導入
今回認証を申請する期間 ※実施要綱 1.6 に定められた認証対象期間内に設定されていることを確認して記載すること。		2015年11月1日 ～ 2016年11月1日 ■プロジェクト登録時に定めた認証対象期間内でありかつ認証済の期間外である □上記期間以外
過去の認証状況 ※過去に排出削減量の認証を受けている場合には、各期間と方法論ごとの認証されたトン数を記載すること。認証回数増加に併せて適宜行を追加して記載すること。	第1回	年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2)
	第2回	年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2)
	第3回	年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2)
	第4回	年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2)
	第5回	年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2)
排出削減・吸収量 また、複数方法論の場合は、プロジェクトとしての合計値を記載すること。	今回認証を申請する期間の合計値（実績値）	212 t-CO2
	今回認証を申請する期間のプロジェクト計画書における排出削減・吸収見込量 ※プロジェクト計画書における排出削減・吸収見込量の合計値	182 t-CO2

	を、今回認証を申請する期間で按分すること。	
省エネルギー量 ※省エネルギー等分野の方法論 (方法論番号が EN-S で始まる方法論のうち廃棄物由来燃料を使用しないもの) を用いたプロジェクトの場合には、今回認証を申請する期間の省エネルギー量の実績値を記載すること。 また、複数方法論の場合は、プロジェクトとしての合計値を記載すること。		5.4 kl
プロジェクト実施者と合意した検証の前提	検証の基準 ※適用した制度文書類のバージョンを記載すること	国内における地球温暖化対策のための排出削減・吸収量認証制度 実施要綱 Ver. 3.0 実施規程 (プロジェクト実施者向け) Ver. 3.0 実施規程 (審査機関向け) Ver. 1.2 モニタリング・算定規程 (排出削減プロジェクト用) Ver. 2.5 モニタリング・算定規程 (排出削減プロジェクト用別冊) Ver. 1.0
	目的 ※プロジェクトの実施によって、モニタリング報告書における排出削減量・吸収量が実際に生じたことの評価を行うことも目的に含めて記載すること	J-クレジット制度に基づき、プロジェクト代表実施者である第一化成工業株式会社が作成したモニタリング報告書 (検証申請日: 2016年11月21日) 及びモニタリング報告書別紙の記載内容について検証を行った。 検証は、以下の評価も含んでいる。 ・実施要綱等に係るプロジェクト代表実施者の利用状況における適切性の評価 ・用いられた算定方法の適切性及びプロジェクト代表実施者の行う見積りの合理性についての評価 ・モニタリング報告書に記載された温室効果ガス排出削減量情報の表示の評価
	範囲 ※検証の範囲がプロジェクト計画書及びモニタリング報告書の範囲であることを記載すること	検証の範囲は、モニタリング報告書に記載されている内容に加えて、モニタリング報告書に関連する現場設備 (排出源、計量器等) である。
	保証水準の基準 ※検証の結論を意見として表明する際に採用した水準を記載すること	合理的保証
検証手続 ※実地審査の実施有無について記載すること。 ※実施した場合は訪問日を記載すること。		■実地審査を実施した (2016年12月9日に訪問) □サンプリングで実地審査を実施した (年 月 日に訪問) □実地審査を実施していない

<p>修正・指摘事項及び解決方法 ※4 における結果を総括し、排出削減量・吸収量に影響を与える可能性のある、主な誤り、指摘事項について記載すること。</p>		<p>本検証の過程で修正・指摘した事項は下記の通りであり、本報告書発行日までに全て解決され必要な修正が行われた。</p> <p>・今回の認証申請期間の開始日は2015年11月1日である。活動量指標であるプロジェクト実施後のボイラーにおける燃料（都市ガス）使用量（F PJ,fuel）については購買伝票によるモニタリングを実施することとなっている（分類 A）が、2015年11月分の購買伝票は開始日が2015年11月3日からとなっており、11月1, 2日の活動量については2015年10月分の購買伝票を日割り按分していた。当該方法は購買伝票による把握方法（分類 A）には該当しないため、11月1, 2日の活動量については保守的に0とすることとした。</p>
<p>検証結果</p>	<p>検証結果</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>無限定適正 <input type="checkbox"/>不適正 <input type="checkbox"/>意見不表明</p>
	<p>意見・結論 ※4 における結果を総括し、検証結果における意見の理由を記載すること。</p>	<p>当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、モニタリング報告書に記載された温室効果ガス排出削減量情報は、誤りの合計値が重要性の基準値未満であり、本制度の規程類に従って作成されていた。</p>